

キックオフイベント オンラインセッション開催報告

イベント名 科学の場に参加する"ハードル"を取り除くには～全ての人が科学を楽しむ場を作るために～

開催日時 6月22日 15:00～ 17:00

登壇者など

- ①障害と科学/JAASでの取り組み：並木重宏（東京大学）
- ②理科教育において視覚障害当事者が遭遇する困難について：久米良作（元小学校教諭/牡丹の会）
- ③聴こえる私が聴こえない学生と研究発表イベントを開くまで：青木優美（元つくば院生ネットワーク / 株式会社しびっくばわー）
- ④視覚に障害のある子どもたちの科学を楽しむ場を作るために ～科学へジャンプ地域版を通して～：小林秀之（筑波大学人間系障害科学域 / 科学へジャンプ地域版運営委員長）、高村明良（全国高等学校長協会入試点訳事業部専務理事 / 科学へジャンプイン関東実行委員会委員長）、清和嘉子（筑波大学附属視覚特別支援学校教諭 / 科学へジャンプイン関東実行委員会事務局）

参加人数 73名（申し込み265）

報告内容（自由に記述してください）

1. JAASのモデルとなっているアメリカ科学振興協会(AAAS)が、これまでに行ってきた障害者の参加を促す取り組みを紹介した。AAASの活動として、障害と科学に関するリソースグループ、会議のアクセシビリティのモデルケースの提示、ロールモデルプロジェクト、就労支援のためのインターンシッププログラムを取り上げた。
2. 視覚がある人、無い人、両方の立場を知る元教師の体験談。視覚障害の当事者として、小学校の理科の授業において視力がないことで困る具体例や、新しい技術を取り入れる日々の生活での工夫を紹介した。
3. 学問の垣根を超えた研究発表イベント「みんなの学会」で、聴覚障害を持つ学生が発表するに至るまでの道程を紹介。手話ができないことで「マジョリティの無知」と「科学の言語表現」で感じたことを発表した。
4. 「科学へジャンプ」の概要と、視覚に障害のある子どもたちの「ハードルを取り除いた場づくり・環境づくり」という視点で「科学へジャンプ地域版」の取り組みを紹介した。「科学へジャンプ」で実際に実施した理科実験のビデオや、算数・数学のワークショップの映像も配信された。